

別記様式第2号 別添

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域水産業再生委員会 ID1122015

組織名	兵庫県地域水産業再生委員会 西二見部会
代表者名	部会長 山本 章等

再生委員会の構成員	西二見漁業協同組合・明石市・兵庫県東播磨県民局加古川農林水産振興事務所
オブザーバー	兵庫県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	兵庫県明石市二見町西二見地域 ノリ養殖漁業(23名)・小型底曳網漁業・五智網漁業(25名)・一本釣り漁業ほか(17名)延べ65名(兼業含む) 漁業者36名
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>本地域は、兵庫県南東部の東播磨地域に位置し、市内最西端に位置する歴史のあるまちである。また、地先の播磨灘には、明石海峡の激しい潮流によって、「鹿ノ瀬」と呼ばれる広大な浅瀬が広がり、日本有数の豊かな漁場を形成している。これらの豊かな漁場の恩恵を受け、四季折々に様々な魚介類が水揚げされるが、なかでも「明石鯛」や「明石だこ」は全国的に知名度も高い。大阪、神戸が商圏内にあり、生産地と大消費地が近くにあることもひとつの特徴である。</p> <p>漁業種別としては、漁船漁業とノリ養殖業が主である。漁船漁業では、小型底曳網漁業が中心で、主な漁獲物はマダコである。水揚げされる魚介類の流通については、地元仲買業者への販売や漁業者自身が市の公設市場などへの出荷を行っている。</p> <p>魚介類の単価の推移をみると、マダコを除くほとんどの魚種で下落傾向がみられ、漁獲量の減少と相まって生産金額の減少に歯止めがかからない状態である。全国的な魚離れからの消費の減退、量販店主導による価格設定、産地仲買人の取扱量の減少など、様々な要因によって産地における魚価の低落を加速化させている。さらに、消費者が魚の名前も分からない、食べ方も知らない等、魚食文化自体の劣化といった実態も浮かび上がっているために、需要競争による魚価向上は見込めそうにない。</p> <p>また、当地域ではノリ養殖業が盛んで、地域内で生産されるノリは「明石ノリ」として流通するものもあるが、その多くは業務用として流通しているため、市場での「明石のり」としての認</p>

知度はそれほど高くなく、業務用が主体となる単価で取引されることが多い。また、近年海域の栄養塩不足による色落ち被害は少なくなったとはいえ、海況の変化に関する不安や、生産するノリ品質や生産枚数が不安定な状況に変わりはなく、他産地の生産状況やそれにともなった相場などの外部要因の影響を受けることでノリ品質向上と価格上昇が比例しにくい現象が起こっている。そこで、単価が抑えられる傾向にある業務用が主体のノリづくりではなく、消費者から指名を受けられるような特質をもつノリづくりが求められている。

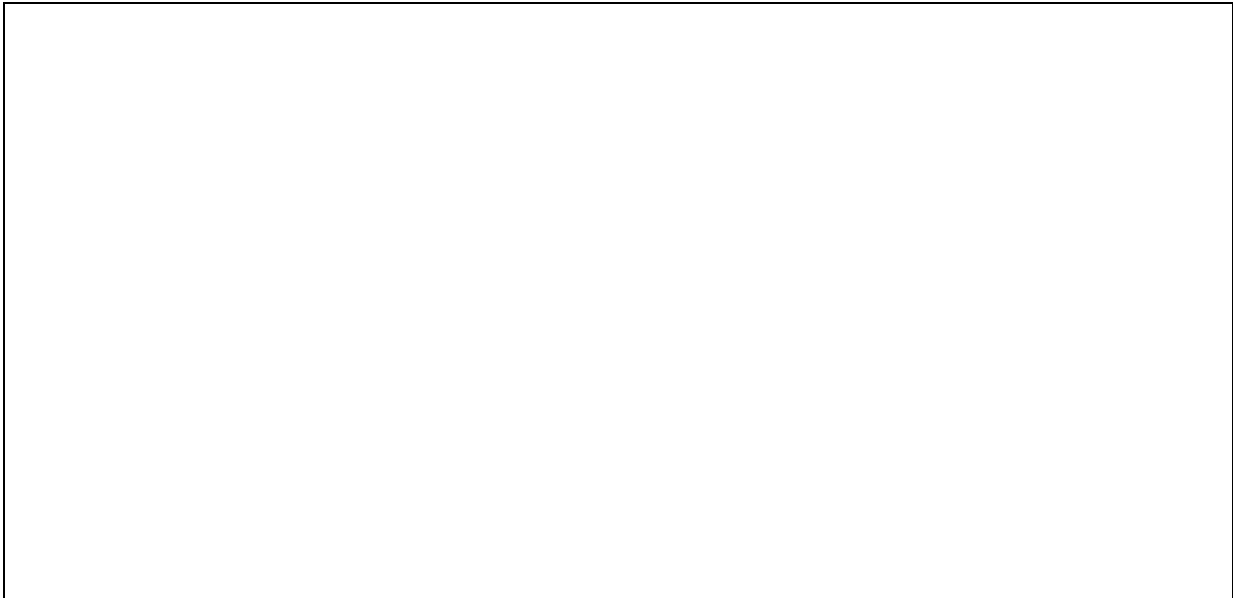
さらに、漁船漁業、ノリ養殖業ともに経営面では、ここ最近の漁業用資材及び燃料価格の高騰、高止まりにより漁業経費が増加しており、収益が減少傾向にある。漁況や海況の変化受けやすく、労働条件にも恵まれない環境の中で設備の近代化などの工夫をしながら経営安定化を目指すものの、その実現が難しい状況もあって、漁業者の高齢化や新規就労者の減少により後継者不足が進行している。後継者不足から組合員数の減少が深刻な状況であった一方で、新規就業者支援事業の育成等により若者 2 名が新規加入したことから、H26 年には青年部が再結成され、新規海藻養殖事業などにも取り組み始めた。

(2) その他の関連する現状等

地域資源が活かされず、にぎわいに繋がっていない。
事業者との連携が不十分である。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

前期の新規海藻養殖事業の取組の状況や資源管理への取組の成果を踏まえ、主要海藻養殖（ノリ）事業と資源管理の取組を強化するため、今期は以下の方針で取り組む。

○ノリ生産量及び生産額の増大

- ・老朽化した乾燥機の更新
- ・一期作の継続
- ・むかし海苔の生産拡大

○魚価の向上

- ・明石産の水産物のPR活動

○環境・生態系の保全と漁場の管理

- ・稚魚放流や子持ちダコの再放流等
- ・禁漁区及び休漁期間設定による操業自主規制の推進
- ・海底耕耘、かいぼりの継続

○魚食文化の普及啓発

- ・料理教室、学校園での食育推進
- ・地魚の学校給食への提供

○意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保

- ・計画的な漁業経営の為の研修会への参加

○燃油の急騰に対する備え

- ・セーフティネット構築事業の継続、推進

○省燃油活動の推進

- ・減速航行、不要不急な積載物の削減
- ・定期的なメンテナンス、船底清掃履行

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁獲努力量の削減等については、漁獲物の体長制限、操業時間及び期間の制限、休漁等を確実に履行している。また、ノリ養殖については兵庫県のり養殖漁場改善計画に基づく生産対策等を遵守している。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度（2019年度））「所得2%向上」

漁業収入向上のための取組	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none">・ノリ養殖業者全員で栄養塩不足による色落ちに対応するため、2期作を止め、秋芽網のみを用いた1期作への移行により生産枚数が増加したことを受け、色落ちの少ない秋芽網において張込み枚数を増やして品質向上を図るとともに生産枚数を増大させる。・ノリ養殖業者は、古くなった乾燥機の代わりに新型の大型ノリ自動乾燥機を導入することにより、ノリ生産枚数を増大させる（色のある内により多くのノリを生産する等）とともに、品質の向上（品質の安定化、異物混入等によるロス率の低減）を図る。・ノリ養殖業者は県漁連と連携し、昔ながらに粗く刻んだ海苔を、素早く抄き乾燥させた「むかし海苔」を本格的に販売する。・漁協は、ノリ養殖業者と協力し、消費者に美味しさを伝える観点から、やわらかな新芽を初摘みした海苔（養殖ノリは通常10回程度摘採を行うが、摘採回数を重ねるほどノリは硬くなっていくことから、一番最初に摘んだ初摘みノリはお茶で言うと新茶にあたり珍重される）にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、新たに販売を開始する。また、地元農協の直売所での販売を検討する他、1月に開催されるもちつきイベント等にも積極的に参加するとともに、明石ノリの統一ロゴやポスターにより、消費者に対して明石ノリの美味しさをPRし、消費拡大を引き続き図る。 <p>② 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・マダイについて、漁船漁業者は、明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持するよう努める。・漁協は漁業者、明石市漁業組合連合会と連携し、明石ダイ、明石ダコなど明石の水産物について、前年までの大阪の百貨店や東京丸の内でのプロモーション活動の経験を踏まえて、飲食店をターゲットとした大阪での商談会（ぐるなびを活用）に参加し、明石産の水産物を使ってもらうことで、より一層のPRを
--------------	---

	<p>行い、明石製品の販路拡大や消費拡大に繋げ、漁業収入の向上を図る。</p> <p>③ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> 全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ漁場周辺に流れ込む河川周辺を重点的に行う。また、栽培漁業や資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。 <p>小型底引き協議会としてマダコの減少傾向にあることから、子持ちの親だこをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。</p> <p>市漁連として産卵用のたこつぼの投入を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。 <p>④ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁協は、明石市漁協女性部連合会が行う料理教室に協力し、地元の魚を学校に納品するなど地域の小中学生や食育活動を実施している団体に引き続き魚食普及活動を行い、地元水産物のPRを行う。 漁協は漁業者と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 <p>⑤ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 役員 8 名を中心として計画的な漁業経営を行い、指導的漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 <p>⑥ ノリ養殖に係る広域の取り組み（県漁連）</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵庫県漁連は、ノリの色落ちなどの養殖リスクを極力軽減できるよう、県下の養殖海域の環境情報を調査し漁業者等に迅速に情報提供を行うため、環境観測装置を整備する。 また、県下のノリ養殖を支えている兵庫県漁連の種培養施設、ノリ網への種付け作業に必要な施設、機器の整備を検討し、ノリ養殖の安定化、高品質化等を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 全漁業者が減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に

	繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業(漁業用燃油価格安定対策事業)、水産多面的機能発揮対策事業

2年目(平成32年度(2020年度))「所得4%向上」

漁業収入向上のための取組	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地水産業強化支援事業を活用して、大型ノリ乾燥機の導入を図る。大型ノリ自動乾燥機を活用して生産枚数を増大させ、品質の向上に努める。 ノリ養殖漁業者は県漁連と連携し、昔ながらに粗く刻んだ海苔を、素早く抄き乾燥させた「むかし海苔」を本格的に販売する。 漁協は、ノリ養殖業者と協力し、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、26年度に作成したロゴやポスターを活用しつつ、地元農協の直売所での販売を検討する他、イベント等にも積極的に参加し、消費者に対して明石ノリの美味しさをPRし、消費拡大を図る。 <p>② 収益性重視の操業</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁協は収益性重視の操業・生産体制を引き続き行う。海苔自動乾燥機の稼働時間・温度の管理等による経費削減を指導する。 <p>③ 新規の養殖業の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手漁業者で組織された青年部は、多角的な経営により漁家経営を安定させるため、水産技術センターの協力を得て海苔以外の養殖試験を引き続き行う。 <p>④ 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> マダイについて、漁船漁業者は、明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持するよう努める。 漁協は漁業者、明石市漁業組合連合会と連携し、明石ダイ、明石ダコなど明石の水産物について、飲食店をターゲットとした大阪での商談会(ぐるなびを活用)に参加するとともに、明石産の水産物を使ったメニューを開発してもらうことで、まだ認知度の低い一般消費者へより一層のPRを行い、明石産品の販路拡大や消費拡大に繋げ、漁業収入の向上を図る。 <p>⑤ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産多面的機能発揮対策事業等を活用して、海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため
--------------	--

	<p>池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ漁場周辺に流れ込む河川周辺を重点的に行う。</p> <p>また、稚魚放流や栽培漁業や資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。</p> <p>小型底引き協議会としてまだこの減少傾向にあることから、子持ちの親だこをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。</p> <p>市漁連として産卵用のたこつぼの投入を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。 <p>⑥ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、明石市漁協女性部連合会が行う料理教室に協力し、地域の小中学生や食育活動を実施している団体に引き続き魚食普及活動を行い、地元水産物のPRを行う。 ・漁協は漁業者と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 <p>⑦ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員 8 名を中心として計画的な漁業経営を行い、指導的漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 <p>⑧ ノリ養殖に係る広域の取り組み（県漁連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県下のノリ養殖を支えている兵庫県漁連の種培養施設、ノリ網への種付け作業に必要な施設、機器の整備を検討し、ノリ養殖の安定化、高品質化等を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の結果を踏まえ、全漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる省エネ機器導入推進事業を利用して、古い機器の更新を早め燃油消費量の削減を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業強化支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業(漁業用燃油価格安定対策事業)、水産多面的機能発揮対策事業</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者全員で栄養塩不足による色落ちに対応するため、2期作を止め、秋芽網のみを用いた1期作に引き続き取り組む。色落ちの少ない秋芽網において、張込み枚数を増やして品質向上を図るとともに生産枚数を増大させる。 ・ノリ養殖業者は、大型ノリ自動乾燥機を活用して生産枚数を増大させ、品質の向上を図る。 ・ノリ養殖漁業者は県漁連と連携し、昔ながらに粗く刻んだ海苔を、素早く抄き乾燥させた「むかし海苔」を本格的に販売する。 ・漁協は、ノリ養殖業者と協力し、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、26年度に作成したロゴやポスターを活用しつつ、地元農協の直売所での販売を検討する他、イベント等にも積極的に参加し、消費者に対して明石ノリの美味しさをPRし、消費拡大を図る。 <p>② 収益性重視の操業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖については、水産業強化支援事業・水産業競争力強化支援事業を活用し、五智網漁業について収益性重視の操業・生産体制の実証事業引き続き行う。 <p>③ 新規の養殖業の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手漁業者で組織された青年部は、多角的な経営により漁家経営を安定させるため、水産技術センターの協力を得て、海苔以外の藻類養殖試験を行う。 <p>④ 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダイについて、漁船漁業者は、明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持するよう努める。 ・漁協は漁業者、明石市漁業組合連合会と連携し、明石ダイ、明石ダコなど明石の水産物について、飲食店をターゲットとした大阪での商談会（ぐるなびを活用）に参加するとともに、明石産の水産物を使ったメニューを開発してもらうことで、まだ認知度の低い一般消費者へより一層のPRを行い、明石産品の販路拡大や消費拡大に繋げ、漁業収入の向上を図る。 <p>⑤ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ漁場周辺に流れ込む河川周辺を重点的に行う。また、稚魚放流、栽培漁業や資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。
---------------------	--

	<p>小型底引き協議会としてまだこの減少傾向にあることから、子持ちの親だこをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。</p> <p>市漁連として産卵用のたこつぼの投入を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。 <p>⑥ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、明石市漁協女性部連合会が行う料理教室に協力し、地域の小中学生や食育活動を実施している団体に引き続き魚食普及活動を行い、地元水産物のPRを行う。 ・漁協は漁業者と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 <p>⑦ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員 8 名を中心として計画的な漁業経営を行い、指導的漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 <p>漁業人材育成総合支援事業を活用して、後継者育成に努める。</p> <p>⑧ ノリ養殖に係る広域の取り組み（県漁連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県下のノリ養殖を支えている兵庫県漁連の種培養施設、ノリ網への種付け作業に必要な施設、機器の整備を検討し、ノリ養殖の安定化、高品質化等を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の結果を踏まえ、全漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる省エネ機器等の導入を推進して、古い機器の更新を早め燃油消費量の削減を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業強化支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業(漁業用燃油価格安定対策事業)、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業</p>

4年目（平成34年度（2022年度））「所得8%向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者全員で栄養塩不足による色落ちに対応するため、2期作を止め、秋芽網のみを用いた1期作に引き続き取り組む。色落ちの少ない秋芽網において、張込み枚数を増やして品質向上を図るとともに生産枚数を増大させる。 ・ノリ養殖業者は、更新が遅れている大型ノリ自動乾燥機を産地水産業強化支援
---------------------	--

事業等の活用により生産枚数を増大させ、品質の向上を図る。

- ノリ養殖漁業者は県漁連と連携し、昔ながらに粗く刻んだ海苔を、素早く抄き乾燥させた「むかし海苔」を本格的に販売する。
- 漁協は、ノリ養殖業者と協力し、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、26年度に作成したロゴやポスターを活用しつつ、地元農協の直売所での販売を検討する他、イベント等にも積極的に参加し、消費者に対して明石ノリの美味しさをPRし、消費拡大を図る。

② 収益性重視の操業

- ノリ養殖については支援事業を活用し、コストの削減・品質の向上に努める。五智網漁業について収益性重視の操業・生産体制の実証事業の検討を始める。

③ 新規の養殖業の模索

- 若手漁業者で組織された青年部は、多角的な経営により漁家経営を安定させるため、水産技術センターの協力を得て、海苔以外の藻類養殖試験を行う。

④ 魚価の向上

- マダイについて、漁船漁業者は、明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持するよう努める。
- 漁協は漁業者、明石市漁業組合連合会と連携し、明石ダイ、明石ダコなど明石の水産物について、飲食店をターゲットとした大阪での商談会（ぐるなびを活用）に参加するとともに、明石産の水産物を使ったメニューを開発してもらうことで、まだ認知度の低い一般消費者へより一層のPRを行い、明石産品の販路拡大や消費拡大に繋げ、漁業収入の向上を図る。

⑤ 漁場環境の保全と資源量の増大

- 全漁業者で水産多面的機能発揮対策事業を活用して、海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ漁場周辺に流入する河川周辺を重点的に行う。また、稚魚放流、栽培漁業や資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。

小型底引き協議会としてまだこの減少傾向にあることから、子持ちの親だこをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。

市漁連として産卵用のたこつぼの投入を継続して行う。

- 漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。

	<p>⑥ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、明石市漁協女性部連合会が行う料理教室に協力し、地域の小中学生や食育活動を実施している団体に引き続き魚食普及活動を行い、地元水産物のPRを行う。 ・漁協は漁業者と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 <p>⑦ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員 8 名を中心として計画的な漁業経営を行い、指導的漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 ・漁業人材育成総合支援事業の活用で、後継者育成に努める。 <p>⑧ ノリ養殖に係る広域の取り組み（県漁連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県下のノリ養殖を支えている兵庫県漁連の種培養施設、ノリ網への種付け作業に必要な施設、機器の整備を検討し、ノリ養殖の安定化、高品質化等を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の結果を踏まえ、全漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる省エネ機器等の導入を推進して、古い機器の更新を早め燃油消費量の削減を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業強化支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業(漁業用燃油価格安定対策事業)、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業</p>

5年目（平成35年度（2023年度））「所得10%向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者全員で栄養塩不足による色落ちに対応するため、2期作を止め、秋芽網のみを用いた1期作を引き続き行う。色落ちの少ない秋芽網において、張込み枚数を増やして品質向上を図るとともに生産枚数を増大させる。また、その摘採時期や間隔、回数を漁場環境に対応させる工夫により、限られた短い養殖期間で効率的な生産を行う。 ・ノリ養殖業者は、大型ノリ自動乾燥機を活用して生産枚数を増大させ、品質の向上や経費の削減を図る。 ・ノリ養殖漁業者は県漁連と連携し、昔ながらに粗く刻んだ海苔を、素早く抄き乾燥させた「むかし海苔」を本格的に生産し販売する。
---------------------	--

・漁協は、ノリ養殖業者と協力し、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでしっかりと歯切れ良く加工し、販売する。また、26年度に作成したロゴやポスターを活用しつつ、地元農協の直売所での販売を検討する他、イベント等にも積極的に参加し、消費者に対して明石ノリの美味しさをPRし、消費拡大を図る。

② 収益性重視の操業

・漁協は新規就業者（45歳未満）を対象に、現在は主に2人乗りで操業している五智網漁業について、1人で操業することができるように漁具改良での実証事業する。

③ 新規の養殖業の模索

・第1期からの試行結果を踏まえ、若手漁業者は、多角的な経営により漁家経営を安定させるため、水産技術センターの協力を得て、海苔以外の藻類養殖を規模を拡大して始める。

④ 魚価の向上

・マダイについて、漁船漁業者は、明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持するよう努める。

・漁協は漁業者、明石市漁業組合連合会と連携し、明石ダイ、明石ダコなど明石の水産物について、飲食店をターゲットとした商談会（ぐるなびを活用）に参加し、取り扱い店舗を増加させるとともに、明石フェアの開催等を通じて、まだ認知度の低い一般消費者へより一層のPRを行い、明石製品の販路拡大や消費拡大に繋げ、漁業収入の向上を図る。

⑤ 漁場環境の保全と資源量の増大

・全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ漁場周辺に流入する河川周辺を重点的に行う。また、稚魚放流、栽培漁業や資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。

小型底引き協議会としてまだこの減少傾向にあることから、子持ちの親だこをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。

市漁連として産卵用のたこつぼの投入を継続して行う。

・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。

⑥ 魚食文化の普及啓発

・漁協は、明石市漁協女性部連合会が行う料理教室に協力し、地域の小中学生や

	<p>食育活動を実施している団体に引き続き魚食普及活動を行い、地元水産物のPRを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業者と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 <p>⑦ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員 8 名を中心として計画的な漁業経営を行い、指導的漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 ・漁協は、新規就業者支援事業を利用して漁業研修を行うことにより、新規就業者の確保を図る。 <p>⑧ ノリ養殖に係る広域の取り組み（県漁連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県下のノリ養殖を支えている兵庫県漁連の種培養施設、ノリ網への種付け作業に必要な施設、機器の整備を検討し、ノリ養殖の安定化、高品質化等を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の結果を踏まえ、全漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者 1 名が導入した省エネ機器等を活用し、燃油消費量の削減を図るとともに、漁協は省エネ機器への換装を推進する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業強化支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業</p>

(5) 関係機関との連携

取組の効果が十分に発現されるよう、行政（兵庫県、明石市）、系統団体（兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県漁業共済組合等）、地域団体（明石市漁業組合連合会）との連携を強固にするとともに、県内外の流通・販売業者、飲食店等についても新たな連携を図る。
また、新規就業者の許可取得が優先的に行われるなど、新規就業者の経営安定のために関係機関が協力する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成29年度（2017年度）：
	目標年	平成35年度（2023年度）：

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

(3) 所得目標以外の成果目標

ノリ1枚当たりの単価	基準年	平成29年度（2017年度）： 11.24円/枚
	目標年	平成35年度（2023年度）： 12.24円/枚

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

- 隣接する地域とのノリ1枚当たりの単価の差を海上でのノリ網の管理・加工場での生産管理をより徹底することにより、品質向上に取り組み顧客満足度を向上させることにより、1枚当たりの単価を上げる。
- 目標年の漁業収入については、基準年の生産枚数が5,323万枚（添付資料PDF平成29年度海苔水揚・枚数）あり同等の生産としても金額ベースで5,323万円増加することとなる。これは平成29年ノリ年度に対し約9%の増加となる。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業	ノリ高性能刈取船、大型ノリ自動乾燥機の導入、ノリ加工施

	<p>設の上屋、活魚水槽、漁具倉庫等の共同利用施設の整備を行い、漁業経営体質を強化し、漁業コストの削減及び漁業所得の向上を図る。</p>
<p>漁業経営セーフティネット構築事業</p>	<p>燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定を図り、漁業所得を確保する。</p>
<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>	<p>干潟等の保全活動による資源量の増大や魚食普及や食育活動による水産物の消費拡大を図り、漁業所得の向上に繋げる。</p>
<p>漁業人材育成総合支援事業</p>	<p>意欲ある若者が漁業に新規参入し、継続して漁業に携わるための環境を整えるとともに漁業の高付加価値化を担う人材を確保・育成する。</p>